

トビウオ通信 (H31 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成30年(2018年)の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、平成30年(1~12月)の島根県漁業の動向を取りまとめました(海面漁業・漁船漁業のみ)。

全体 … 漁獲量・生産額ともに平年並み

平成30年の島根県(属人)の総漁獲量は11万3千トン(平年比92%)、総生産額は198億円(同102%)でした(表1、図1、2)。前年(平成29年)と比べると、総漁獲量で1万9千トンの減少、総生産額では8千万円の減少となりました。総漁獲量はマイワシ(平年比53%)が不漁だったため減少しました。総生産額では、マイワシ(同49%)は平年を下回りましたが、サバ類(同167%)が平年を大幅に上回ったため、前年並みとなりました。

漁業種類別でみると、漁獲量ではまき網が全体の約8割を占め、生産額ではまき網が全体の42%、定置網が11%、沖合底びき網2そう曳きが11%、小型底びき網1種が9%となりました。

魚種別でみると、漁獲量の上位5魚種はサバ類(3万4千トン)、マアジ(2万8千トン)、マイワシ(1万5千トン)、ブリ(9千トン)、ウルメイワシ(6千トン)となりました(図3)。これらのうち、サバ類(平年比178%)は漁獲量が平年を大きく上回り、マアジ(同91%)、ウルメイワシ(同110%)は平年並みでした。マイワシ(同58%)、ブリ(同68%)は平年を下回りました。

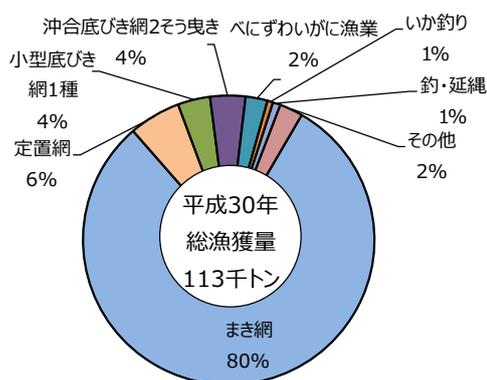


図1 平成30年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

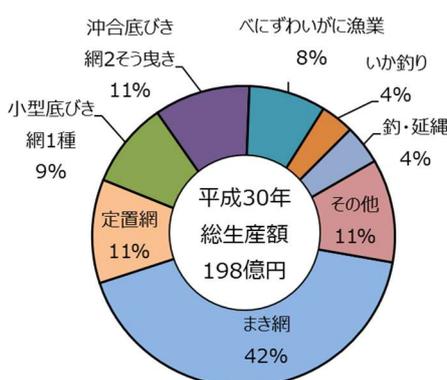


図2 平成30年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

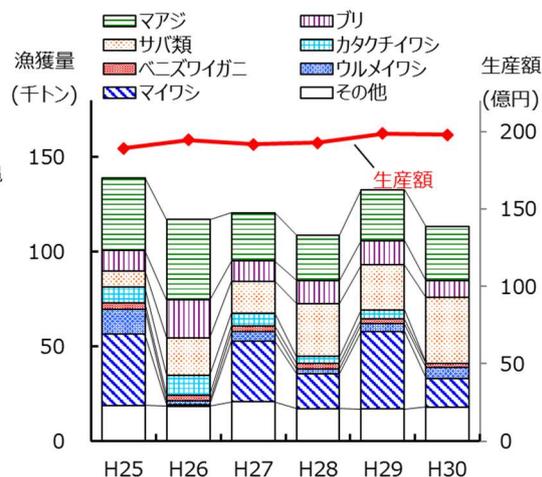


図3 島根県の総漁獲量・総生産額の推移

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平成30年の漁獲量・生産額および平年比は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網の魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている1経営体を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成29年の数値、「平年」は過去5年(平成25年~29年)、沖合底びき網漁業のみ過去10年(平成20年~29年)の平均値を指します。
- ☞ 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80~120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

まき網漁業 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

平成30年のまき網漁業全体の漁獲量は9万1千トン、生産額は83億5千万円でした。まき網漁業のうち大半を占める中型まき網の漁獲量は7万9千トン（平年比88%）、生産額は71億6千万円（同101%）でした（図4）。前年に比べ漁獲量は減少、生産額は増加となりました。1船団あたりの漁獲量・生産額はいずれも平年並みでした（漁獲量は平年比96%、生産額は同110%）。

中型まき網を対象に魚種別でみると、マイワシは1年を通じて低調に推移し、漁獲量は1万3千トン（平年比52%）となりました。近年主力のマアジは2月、4月から6月にかけて平年を上回りましたが、他の月では平年並みか平年を下回っており、漁獲量は2万4千トン（同91%）でした。サバ類は豊漁で、漁獲量は2万7千トン（同181%）と平年を上回りました。ウルメイワシは6千トン（同111%）で平年並み、カタクチイワシは56トン（同1%）で平年を大きく下回りました。

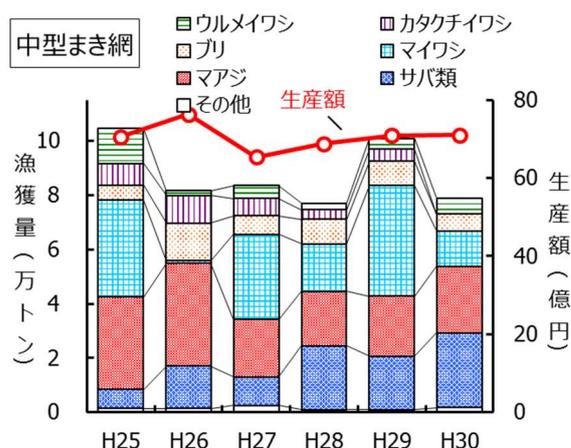


図4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業(2そう曳き) ……1 船団あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

沖合底びき網漁業（2そう曳き）は2隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成30年の漁獲量は4千4百トン（平年比95%）、生産額は20億3千万円（同93%）でした（図5）。1船団あたりの漁獲量は628トン（同101%）、生産額は2億9千万円（同99%）でともに平年並みでした。1船団あたりの漁獲量・生産額は、平成24年に減少した以降は増加傾向でしたが、平成30年生産額が前年の87%に減少しました（図6）。

魚種別の動向をみるとアカムツ（平年比168%）が平年を大きく上回り、マアジ（同125%）も平年を上回りました。キダイ（同118%）、アンコウ（同91%）、アナゴ・ハモ類（同117%）は平年並みでした。一方、カレイ類は低調で、ムシガレイ（同71%）、ソウハチ（同76%）、アカガレイ（同17%）は平年を下回りました。例年2月に漁獲が多いマフグ（同137%）は平年を上回りましたが、カワハギ類（同73%）は平年を下回りました。

沖合底びき網（2そう曳き）

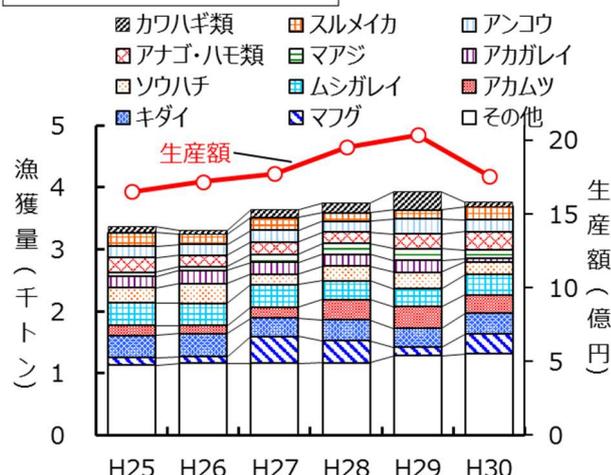


図5 沖合底びき網漁業（2そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）



図6 沖合底びき網（2そう曳き）1船団あたりの漁獲量・生産額の推移

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる漁法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成30年の漁獲量は4千百トン（平年比97%）で、生産額は18億3千万円（同102%）でした（図7）。1隻あたりでみると漁獲量は97トン（平年比102%）、生産額は4千3百万円（同107%）でともに平年並みとなりました。

魚種別の動向では、アカムツ（平年比205%）は平年を上回り、アカガレイ（同113%）は平年並みでした。一方キダイ（同61%）、ヤリイカ（同49%）、マダラ（同58%）は平年を下回りました（図7）。

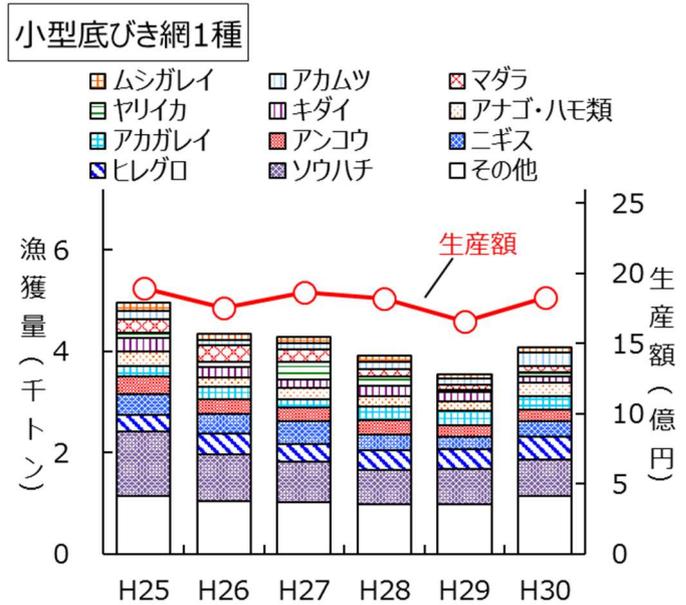


図7 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などが漁獲対象となります。平成30年の漁獲量は6千5百トン（平年比106%）、生産額は22億円（同105%）で、ともに平年並みでした（図8）。また、定置網漁業の漁獲量の約8割を占める大型定置網の1ヶ統あたりの漁獲量（同103%）、生産額（同105%）ともに平年並みでした。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区ではヒラマサ（平年比169%）、サワラ類（同136%）、ホソトビウオ（同136%）が平年を上回りましたが、マアジ（同92%）、ブリ（同100%）は平年並み、サバ類（同68%）、スルメイカ（同31%）、ケンサキイカ（同78%）が平年を下回り、漁獲量（同104%）は平年並みでした。

石見地区ではサバ類（平年比146%）、サワラ類（同130%）、ヒラマサ（同127%）が平年を上回りましたが、マアジ（同111%）、ケンサキイカ（同104%）は平年並みで、ブリ（同77%）、コシナガ（同13%）、ヤリイカ（同10%）が平年を下回り、漁獲量（同118%）は平年並みでした。

隠岐地区ではブリ（平年比194%）、ヒラマサ（同172%）、マイワシ（同179%）が平年を上回りましたが、スルメイカ（同35%）は平年を下回り、漁獲量（同103%）は平年並みでした。

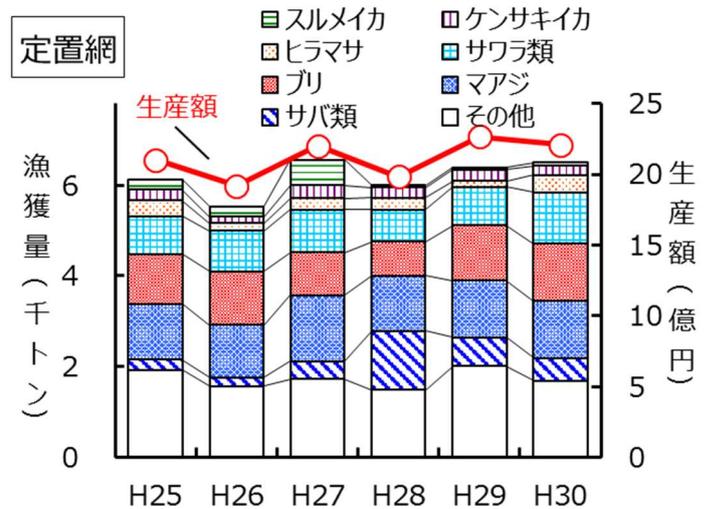


図8 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

釣り・延縄 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

釣り・延縄の平成30年の漁獲量・生産額はそれぞれ9百トン（平年比83%）、8億4千万円（同88%）でともに平年並みでした（図9）。平成25年以降経営体数の減少などにより漁獲量・生産額ともに減少傾向にあります。前年と比べると、平成30年の漁獲量（前年比93%）、生産額（前年比94%）はともに減少しています。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区では漁獲量の約4割を占めるブリ（平年比53%）が平年を下回り、マダイ（同76%）、アマダイ（同64%）も平年を下回ったことから漁獲量（同68%）は平年を下回りました。

石見地区ではブリ（平年比125%）、サワラ類（同130%）、クロマグロ（同132%）、イサキ（同122%）は平年を上回りましたが、アマダイ（同79%）、ヒラマサ（同61%）は平年を下回り、漁獲量（同95%）は平年並みでした。

隠岐地区ではブリ（平年比152%）、イサキ（同129%）は平年を上回りましたが、カサゴ・メバル類（同72%）、キダイ（同69%）、その他のハタ類（同60%）は平年を下回り、漁獲量（同99%）は平年並みでした。

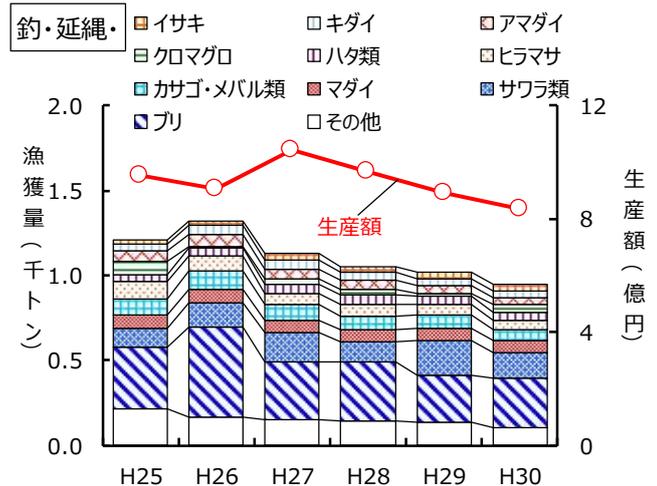


図9 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移

イカ釣り …… ケンサキイカは平年並み、スルメイカは平年を下回る

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。また、漁船の総トン数により「イカ釣り5トン未満」「小型イカ釣り（5トン以上30トン未満）」「中型イカ釣り（30トン以上185トン未満）」に区別され、本県では19トン未満の漁船を使用して操業されています。

平成30年の漁獲量は711トン（平年比89%）、生産額は7億1千万円（同117%）で平年並みとなりました（図10）。魚種別に見ると、ケンサキイカは秋季来遊群が9-11月に多く漁獲され、漁獲量は571トン（平年比116%）と平年並みでした。スルメイカの漁獲量は108トン（同40%）、ヤリイカの漁獲量は3.7トン（同17%）と平年を下回りましたが、ソデイカは28トン（同154%）で平年を上回りました。

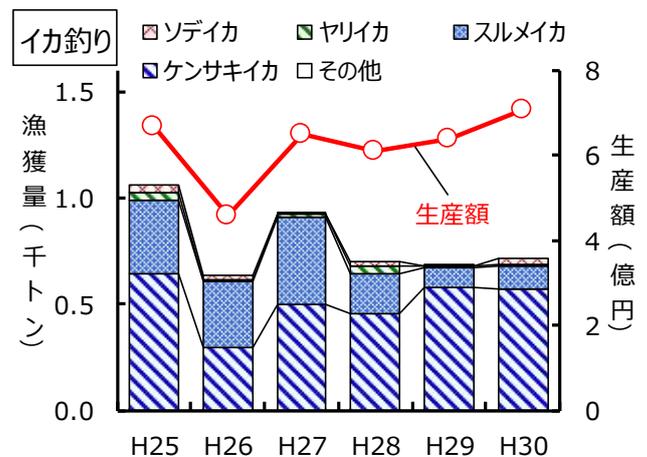


図10 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。
（<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>）

表1 平成 30 年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	113,372	92%	85%	19,791	102%	100%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	7,015	132%	128%	1,029	118%	117%	2,553	148%	◎	369	140%	◎
	隠岐	71,815	85%	75%	6,078	98%	98%	8,977	91%	○	760	105%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	4,397	95%	98%	2,033	93%	89%	628	101%	○	290	99%	○
小型底びき網1種	石見	3,921	98%	115%	1,736	103%	110%	98	102%	○	44	106%	○
定置網 ※※	出雲	3,949	104%	97%	1,508	104%	94%	257	106%	○	99	105%	○
	石見	1,143	118%	100%	319	113%	95%	253	95%	○	72	96%	○
	隠岐	1,404	103%	120%	381	105%	114%	295	99%	○	91	108%	○
釣り・延縄	出雲	381	68%	76%	276	77%	85%	—	—	—	—	—	—
	石見	332	95%	110%	266	93%	103%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	234	99%	108%	294	96%	95%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	263	74%	99%	292	100%	108%	—	—	—	—	—	—
	石見	207	110%	94%	222	130%	108%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	241	93%	125%	195	137%	122%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内全漁協・全経営体が対象。

平年比：過去5年(H25～H29年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H20～29年) 漁模様：◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1ヶ統あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(H25～H30年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。